

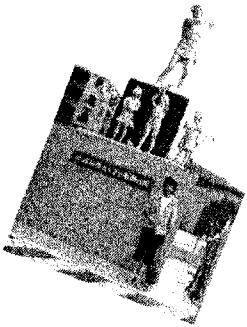
こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< No.42 2011. 8. 14 > 連絡先 402-1622

核兵器のない平和で公正な世界を 原水爆禁止2011年世界大会・長崎にて



今日は8月7日、長崎にいます。6日の夕方、大阪泉大津港から船に乗り、九州に向かいました。

今日から始まった世界大会の開会総会で、田上長崎市長が挨拶を行いました。そのかなで市長は、「市民社会の力を信じる、その力が地域を、都市を、国や世界を動かす。一人一人の力は微力だけど無力じゃない。・・・長崎市のホームページで原爆写真をダウンロードできるようにしてある。どんどん利用してもらって、各地で小さな小さな原爆展を開いてもらいたい。そしてその積み重ねで大きな力にしていこう」と話されました。

その後、エジプト、メキシコ、ベネズエラの政府代表、共産党の志位委員長、アメリカ、ドイツ、韓国、グアム、イギリスの各国で平和運動に取り組んでいるグループの代表が話をし、文字通り世界中から核兵器廃絶、平和を願い運動に取り組んでいることがわかりました。

長崎市民会館いっぱい超満員の、7800人が日本中から集った開会総会はノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、ノーモアフクシマと、核による被害者をこれ以上出してはならない（志位委員長）という熱気にあふれました。



(あいさつする田上長崎市長)

みち子のひとりごと 修学旅行

私にとって長崎といえば、修学旅行を思い出します。

初めての修学旅行は小学校、愛媛県松山市から別府へ行ききました。地の池地獄の赤さにびつくりしたことを覚えています。

中学校の修学旅行では、香川県高松市から、北九州を一周しました。長崎では原爆記念公園で「のどがかわいてしかたがなかったので、黒い水をのみました」という、碑に刻まれた詩にシヨックを受けました。

阿蘇山では、その山並みが「お釈迦様の寝姿になっている」という説明に無理やり納得させられ、別府では地の池地獄との再会を果たしました。そして高校では、兵庫

県姫路市から、北九州一周・・・まったく同じ行程でした。

転校が多かったための貴重な体験だとは思いますが、今度は37年ぶりの長崎へ、平和の担い手の一人として行って来ます。

